

北村朋幹さん応援レポート ～ベートーヴェンをたたえて 2～ 9人のピアニストによる ピアノ・ソナタ全32曲演奏会

2015年11月1日(日) 狛江 エコルマホール

ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲のコンサート

エコルマホール開館20周年記念企画
～ベートーヴェンをたたえて 2～

9人のピアニストによる
**ピアノ・ソナタ
全32曲演奏会**

エコルマホール開館20周年を記念してお贈りする企画、ベートーヴェンをたたえて、第2弾は「ピアノの新約聖書」とも言われ、世界の偉大なピアニストや作曲家を輩出したといわれるドイツの金字塔でもある、ピアノ・ソナタ全32曲を取り上げます。今回、この25曲演奏会のために、これからの世界のピアノ界を拓く覚悟で、日本を代表するトップピアニストが集まり、それぞれがベートーヴェンを表現します。期に多岐を止めることのないベートーヴェン。音楽界から絶えず登場し、絶えずピアノ・ソナタを演奏し続けることが出来る。滅多にない機会です。ぜひ、ベートーヴェンを体感して下さい!

Beethoven Piano Sonata Cycle

2015.10.24 (土)	10.31 (土)
<ul style="list-style-type: none"> 13:00開演 (12:30開場) 出演 伊藤 暁 出演 ソナタ 第1, 2, 3, 4番 16:00開演 (15:30開場) 出演 菊地 裕介 出演 ソナタ 第5, 6, 7, 8番 (1回演) 	<ul style="list-style-type: none"> 13:00開演 (12:30開場) 出演 高橋 悠 出演 ソナタ 第9, 10, 11, 12番 (1回演) 15:45開演 (15:15開場) 出演 仲澤 航代 出演 ソナタ 第13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32番 (1回演)
10.25 (日)	11.1 (日)
<ul style="list-style-type: none"> 11:30開演 (11:00開場) 出演 坂本 尚博 出演 ソナタ 第5, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32番 (1回演) 14:15開演 (13:45開場) 出演 高田 風雄 出演 ソナタ 第13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32番 (1回演) 16:45開演 (16:15開場) 出演 浅玉 真澄 出演 ソナタ 第5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32番 (1回演) 	<ul style="list-style-type: none"> 13:00開演 (12:30開場) 出演 池村 博樹 出演 ソナタ 第24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32番 (1回演) 15:30開演 (15:00開場) 出演 豊平 一朗 出演 ソナタ 第5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32番 (1回演)

単独公演料 全席指定 ¥2,000
※全公演セット券 ¥10,000 (期間限定販売・全公演用一回)

狛江 エコルマホール | 開館 10周年記念企画 | 主催 一般社団法人エコルマホール | 協賛 一般社団法人エコルマホール | 後援 一般社団法人エコルマホール | 協賛 一般社団法人エコルマホール | 後援 一般社団法人エコルマホール

本館 一般社団法人 一般社団法人エコルマホール | 協賛 一般社団法人エコルマホール | 後援 一般社団法人エコルマホール | 協賛 一般社団法人エコルマホール | 後援 一般社団法人エコルマホール

【お問い合わせ】エコルマホール 03(3430)4106

「9人のピアニストによるピアノ・ソナタ全32曲演奏会」。

『ベートーヴェンをたたえて』とのサブタイトルのもと、10月下旬から開催が始められている。

会場のエコルマホール開館20周年を記念したこの企画、「ピアノの新約聖書」とも言われ、ピアノ作品の金字塔でもあるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲を、全9回、9人のピアニストが表現していくという構成である。

4日にわたって開催されてきた演奏会、すでに名だたるピアニストの方々により、1番から27番までが演奏され、本日が会期最終日となる。



エコルマホールロビー。天井の照明灯が幻想的

<プログラムに掲載されていたQ&Aをご紹介します>

Q:「あなたにとってベートーヴェンのピアノ・ソナタとは？」

北村さん:
「約250年前に生きた、偉大な人生の大先輩の日記。その作曲された年代により共感出来たり、これから自分が進むべき道を示してもらえたりします」



エコルマホール入口

本日のプログラムは、ベートーヴェンの後期ソナタに位置づけられるソナタ第28番と、第29番。「ハンマークラヴィーア」として知られる第29番は、全32曲の中でも、最も長大かつ難易度が高いといわれる大作である。

ネット上には「北村さんの、ハンマークラヴィーアは聴かなければ！」といった声も。久しぶりの日本でのリサイタルでもあり、ファンの方々の期待も大きい。

高い精神性、情熱あふれでる圧巻の演奏



エコルマホール。客席より舞台を臨む

北村さん登場。

最初の曲、ソナタ28番。歌うようにやわらかい音色で開始。第2楽章は一転、弾むように、しかし力強く。艶やかに終わる第3楽章まで、内面からにじみ出るような演奏に圧倒される。

休憩ののち、いよいよソナタ第29番「ハンマークラヴィーア」。

北村さん、ピアノに向き合い、力強い和音とともに演奏開始。

いや、圧巻。力強さと繊細さ。弾む音と抑えた音。情熱的で説得力溢れる演奏の余韻が客席にも漂う。



「ブラボー！」が飛び交うなか、北村さんがマイクを片手に再度登場。

「…偉大なベートーヴェンの作品の後に、あまりしゃべりたくないんですが、(先に演奏された)どなたかが、このパターンにしてしまったらしく(笑)」
「…弾かせていただく方もそうですが、聴かれる方もかなりエネルギーを要されたのではないかと」。

『ハンマークラヴィーア』、この曲を弾くためには高い集中力が求められ、
「…演奏を終えたとたんにパタッと倒れこんだり」
「…夢の中で、続きのフレーズが出てこずに目が覚めたり」と、
まさにこの作品に「取り憑かれたかのような」練習の日々であったとのこと。

ベートーヴェンがこの作品を世に出す際、「この29番は理解されるのに50年を要するだろう」と語ったとの話も披露された。

20歳のときに伊藤恵先生に薦められ、21歳から、この作品に取り組み始めたという北村さん、
「…今24歳。3年経ちましたから、あと47年。『本当にこの作品を理解することができた』と言い切れる日が来ることを目指して、弾き続けたいと思います」と、笑顔とともに力強く語ってくれた。

「この大作に、一步一步近づいていきたい」



終演後のサイン会の様子

終演後の北村さんに話を聞いた；

「…ベートーヴェンの曲を弾くというのは、終わりがありませんから。もちろん、どんな曲でもそうですが、ベートーヴェンを弾くというのはそういうことだと感じながら弾いています」

「…今日弾いた29番、50年かけて理解できるのかもしれない。そういう意味では、今は初めの一步、初めの数歩くらいなんだろうなと思っています」

「…冗談ではなく、この曲(29番)には、全部もっていかれてしまうんです。弾き終えた後に現実世界に戻ってくるのが少し大変だったりします」

本当に。聴いているほうも息を呑むほどに。

「…29番をリサイタルで弾くのは5回目くらいです。演奏するのも、プログラムに組むのも、聴いていただけでも大変な曲ですから、弾く機会をいただけることを、ありがたく感じています」

—(29番に取り組み始めた)21歳の時と、24歳の今；

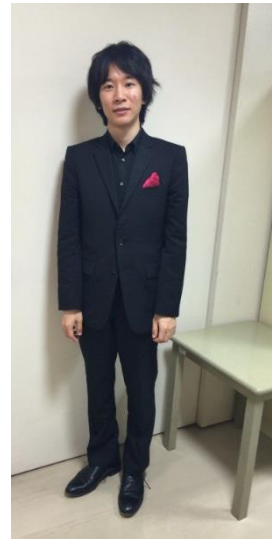
「…弾き方や表現の方法など、取り組み始めたときよりは、少しだけでも作品に近づいてきているという感覚があります。それはあきらかにあります。…少しの一步ですけれど」

「…そうした感覚を得ることが、自分にとって本当に財産となることだと感じています。演奏の機会をいただくことの自分にとっての意味は、そこにあるなと」

「…本番はただただ結果にすぎないですから。自分のなかで大切に準備していても、本番で(それが)出ないこともあります。アクシデントが起こることもありますし。

でも、自分の中に”ある”ものがなかったら、表面上準備していても、本番で出すことはできませんから」

—あと47年、この気持ちのもとに、一步一步近づいていられるのだな…と演奏同様に聞き入ってしまった。



楽屋にて。黒にチーフの赤が素敵でした

次の日本でのソロは12月の財団コンサート。曲はベートーヴェンの「6つのバガテル op.126」。

「…ベートーヴェンが32曲のソナタのそののちに書いた一番最後の楽曲です。ずっとあこがれていた曲で、初挑戦です。初めてっていうのは怖いところもあるんですが、初めてだからできることもあり楽しみです。楽しみにしていただけたいいなと思っています」

北村さん、素敵な演奏でした。12月を楽しみにしています！

〈プログラム〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)

ピアノ・ソナタ第28番イ長調 作品101

ピアノ・ソナタ第29番変ロ長調 作品106

「ハンマークラヴィーア」

ピアノ： スタインウェイ

【コンサート・フライヤー(表)】

エコルマホール開館20周年記念企画

～ベートーヴェンをたたえて2～

9人のピアニストによる ピアノ・ソナタ 全32曲演奏会

エコルマホール開館20周年を記念してお贈りする企画、ベートーヴェンをたたえて。第2弾は「ピアノの新約聖書」とも言われ、古今の多くのピアニストや聴き手を魅了し続けているピアノ作品の金字塔でもある、ピアノ・ソナタ全32曲を取り上げます。

今回、この全32曲演奏のために、これからの日本のピアノ界を担う若手から、日本を代表するベテランピアニストが集まり、それぞれのベートーヴェンを表現します。

常に歩みを止めることのなかったベートーヴェン。青年期から晩年まで作曲し続けたピアノ・ソナタを順番に聴く事が出来る、滅多にない機会です。ぜひ、ベートーヴェンを体感して下さい！

Beethoven Piano Sonata Cycle

2015.10.24 [土]



① 13:00開演 (12:30開場)

【出演】 伊藤 恵
【曲目】 ソナタ 第1、2、3、4番



② 16:00開演 (15:30開場)

【出演】 菊地裕介
【曲目】 ソナタ 第5、6、7、8番「悲愴」

10.25 [日]



③ 11:30開演 (11:00開場)

【出演】 松本和将
【曲目】 ソナタ 第9、10、11、12番「舞送」



④ 14:15開演 (13:45開場)

【出演】 高田匡隆
【曲目】 ソナタ 第13、14番「月光」、15番「田園」



⑤ 16:45開演 (16:15開場)

【出演】 児玉麻里
【曲目】 ソナタ 第16、17番「テンペスト」、18番

10.31 [土]



⑥ 13:00開演 (12:30開場)

【出演】 若林 顕
【曲目】 ソナタ 第19、20、21番「フルトシュタイン」、22、23「熱情」



⑦ 15:45開演 (15:15開場)

【出演】 仲道郁代
【曲目】 ソナタ 第24番「テレーゼ」、25、26番「告別」、27番、エリーゼのために

11.1 [日]



⑧ 13:00開演 (12:30開場)

【出演】 北村朋幹
【曲目】 ソナタ 第28、29番「ハンマークラヴィーア」



⑨ 15:30開演 (15:00開場)

【出演】 野平一郎
【曲目】 ソナタ 第30、31、32番

単独公演券：全席指定 ¥2,000

*全9公演セット券あり・全席指定 ¥10,000 (期間限定販売・全公演同一席)

狛江 エコルマホール ● 728席・小田急線狛江駅北口、徒歩1分
小田急線ご利用：新宿から約20分、登戸から約3分 ● (バス利用：調布駅からの約15分)

主催：一般財団法人 狛江市文化振興事業団 <http://ecorma-hall.jp> @ecormahall 協力：山石屋洋楽工房

愛蔵CD-BOX

お申込み・お問合せ エコルマホール 03(3430)4106

ECORMA HALL

【コンサート・フライヤー(裏)】

■ ベートーヴェンのピアノ・ソナタについて

過去を振り返らず、常に歩みを止めることがなかったベートーヴェン、ひとつとして同じタイプの作品がなく、いつも新しいことを求め、創造する苦闘は惜しみませんでした。

初期(1781)のピアノ・ソナタは先駆者作曲家であったハイデン、モーツァルトの古典的なスタイルを引き継いでいましたが、交響曲のように規模が大きく演奏も難しく、エネルギー溢れる作品であり、当時はピアノの名手として活躍していたベートーヴェンでしたが、すでに個性が強く出ています。新派の作曲家として注目を集めることとなったソナタ「悲愴」は、儼然と始まる新代利郎のスタイルで書かれ、人々はそれに驚きました。その後には楽章の構成を変えたり、即興的な要素や楽章の切り口を解くなど次々に新しい試みを取り入れます。そして、これも当然としてはありえない第1楽章が置いテンポで始まるソナタ「月光」が生まれたのです。この頃から耳の衰微を感じ始めました。

中期(1802～1810)になると、「普通の作曲家ではなく革命的な作品を」と依頼を受けましたが、ベートーヴェンは拒否。しかし、その依頼の影響があったのでしよう。シェークスピアの劇的な物語を作品に盛り込んだソナタ「テンペスト」など、色々な要素をしながら次々とソナタを書いています。また、この時期の楽器の進化もベートーヴェンの創作力をかきたてました。初期に使用していたピアノの鍵盤は61鍵でしたが、ベートーヴェンはフランスのエラール社の性能が良くなった68鍵のピアノを贈られたことにより、その性能を最大限に生かしたソナタ「ワルトシュタイン」を作りました。そして、楽章の進歩とベートーヴェンの作曲創造が究極に合わさった頂点とも言える傑作ソナタ「熱情」の誕生へとつながります。しかし、この「熱情」の後、美しい小規模なソナタを書くための、規模の大きなソナタを書くまで高い空白ができました。ちなみに、この空白はベートーヴェンの創作力が衰えたのではなく、健康問題や社会状況の変化によるものと考えられます。

後期(1816～1822)になると、更に難病障害がひどくなりましたが、しばらくの空白期間が新たな創作力を温存したのでしよう。過去の偉大な作曲家バッハやヘンデルらの作品に熱心な研究が、研究をし、さらに73鍵の最新ピアノを贈られたことにより新たな大作ソナタ「ハンマークラヴィア」が生み出されました。そして、いよいよ最後となる3つのソナタでも新たな試みを取り入れ、円熟した自由技法に高い情緒性が加わり、誰にも真似のする事ができない独創的な作品を書き上げたのです。ベートーヴェンは人評の絶賛を花巻意にしたのではなく、絶頂な考えの下で傑作物のようにきちんと理論を組み立てて作曲をし、常に草稿や草稿から、喜びや勝利へと転じる音楽を書いたのです。

Beethoven Piano Sonata Cycle

チケットの販売について

■ 単独公演券 全席指定 ¥2,000

一般発売: 8/27(水) 倶楽部E発売: 8/21(金)

■ 全9公演セット券 全席指定 ¥10,000

※セット券の販売は終了いたしました。

一般発売: 8/27(水) 倶楽部E発売: 8/21(金)

倶楽部E発売: 7/24(金) 8/21(金)

※開催決定販売・全9公演同一席で高音ができます。

※セット券はエコルマホールのみでの販売となります。

♪ 発売当日のエコルマホール窓口でのチケット販売は9:00から、電話予約は11:00から受付いたします。
♪ 内容等に変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承下さい。
♪ 未定席地はご遠慮下さい。状況サービス(2歳以上の未定席児1人につき1,000円・定員制・公演の2週間前までに費予約)がございます。詳細はお問合せ下さい。

プレイガイド (単独公演チケットのみ販売)

チケットぴあ <http://pia.jp/> 0570(02)9999
Odakyu OX 柏江店 1F 宝くじ Shop (窓口販売のみ)

エコルマホール開館20周年記念企画

～ベートーヴェンをたたえて1～

飯守泰次郎の“英雄”

燃える情熱が、ドイツ音楽の神髄を伝える

出演 二原真志/ヴァイオリン 東京フィルハーモニー交響楽団/管弦楽

5.17[日] 15:00開演 **公演終了**

～ベートーヴェンをたたえて3～

第九 山田和樹 指揮

横浜シフォニエッタ/東京混声合唱団

出演 指揮: 山田和樹 管弦楽: 横浜シフォニエッタ 合唱: 東京混声合唱団

ソプラノ: 山田英津子 アルト: 高橋由樹 テノール: 貝島康平 バリトン: 小森舞香

曲目 ベートーヴェン「カンタータ「静かな夜と静かな朝」、交響曲第9番ニ短調

12.27[日] 14:00開演 (13:15開場)

全席指定 ¥6,500

一般発売: 9/25(金) 倶楽部E発売: 9/18(金)

【コンサート・パンフレット】

プログラム

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)

ピアノ・ソナタ第28番イ長調 作品 101

Piano Sonata No.28 in A major Op. 101

I 急い速く、そして神聖に深い感情をもって

Etwas lebhaft und mit der innigen Empfindung (Allegro, ma non troppo)

II 生き生きとした行進曲風に

Lebhaft, Marschmäßig (Vivace alla marcia)

III ゆっくりと、そして独りに誇らて

Langsam und schmerzvoll (Adagio, ma non troppo, ma affetto)

→速く、しかし速すぎないように、そして新強として

—Gleichmäßig, doch nicht zu sehr und mit Entschlossenheit (Allegro)

♪ 休憩 Intermission (15分)

ピアノ・ソナタ第29番変ロ長調 作品 106 「ハンマークラヴィア」

Piano Sonata No.29 in B-flat major Op.106 "Hammerklavier"

I Allegro

II Scherzo: Assai vivace - Presto - Tempo I

III Adagio sostenuto: Appassionato e con molto sentimento

IV Largo - Allegro - Allegro risoluto

曲目について

HS

■ピアノ・ソナタ第28番イ長調 作品 101

ベートーヴェンは1814年、4年振りによりやく第27番のソナタを書いたものの、空白期間はまだ続きます。精神も悪化し、ピアニストとしての公開の場の演奏も、この年が最後になりま

した。この1814年はナポレオン戦争により混乱したヨーロッパを立て直すためのウィーン会議が開かれ、各国から君主たちがウィーンに集まりました。人気作曲家であったベートーヴェンはこの会議のお陰で大作曲家としてはやされ、生涯で最高の名声を手に入れました。しかし、人気は一時であり、その後の貴族社会の座落により後援者(パトロン)が減ったこと、弟カールの死によって窮った類の後見人問題のごたごた、そして、ウィーンの音楽趣味の変化など、様々な問題がベートーヴェンの精神的負担になり、新作に書く時間が減ったようです。その為かこの時期、作品数は少ないですが新しい道は模索しており、チェロ・ソナタや歌集を書き、続けてこのソナタを書いています。中期の作品の意しさを持ちながらも、叙情的で内面に光を当てようという、より豊かで深みのあるロマン派を感じさせる作品であり、シューベルトやシューマンへの道筋を作る【後期】の作風となっています。1816年に完成させ、ベートーヴェンのピアノの弟子でピアニストでもあった、ドロシア・エルトマン男爵夫人に献呈しています。

息はやわらかで温かみを感じる幻想的な第1楽章、行進曲風の弾むリズムの力強さと繊細さのある独特な第2楽章。そして、原しげに始まり輝かしく締めくくられる第3楽章からなります。ベートーヴェンは過去の偉大な作曲家、バッチの時代の音楽を熱心に研究し、第3楽章に後期のソナタで重要となる、フーガの技法を組み込んだのです。

■ピアノ・ソナタ第29番変ロ長調 作品 106 「ハンマークラヴィア」

作品101の第28番のソナタで創作力が現れたかのように見えますが、1817年にこの作品を手探けるまで、少し時間がかかりました。当時、自分の下に置いておきたかった類の後見人問題が深刻化し、ついには法廷闘争となり1820年までかかってしまいます。(結果的に勝訴し、親を引取り、一緒に暮らすようになります)。また、この時期、ベートーヴェンは病気がちで体力が衰え、新作の発表もなかったことから経済的に苦しくなっています。しかし、逆に創造エネルギーを蓄えたかのように考えることもでき、過去に例のない、この偉大なソナタを生み出しました。これにより自信をつけたのでしよう。最後の3つのピアノ・ソナタ、声楽曲の「ミサ・ソレムニス」、ピアノ作品「ディアベリ変奏曲」、そして、「第9」も、大作を次々と制作していくのです。

さて、1817年に作曲を始め、第1、2、3楽章と進めていく途中、イギリスのブロードウッド社から新しい楽譜提供の申し出がありました。しかし、楽譜の到着が遅かったため最終楽章のみを、最低音階が多くなりより豊かな響きとなったこの新しい楽器で作曲しています。1818年中に完成させ、ルドルフ大公に献呈しています。

なお、出版の際に「ハンマークラヴィアののための大ソナタ」とを付けられたため、一般的に「ハンマークラヴィア」と呼ばれており、これはイタリア語のピアノ・フォルテのドイツ語訳になります。ちなみにベートーヴェンは第27番以降、ドイツ語表記を積極的にしています。

曲は歌を書き思わせる力強い冒頭の和音が全体の軸となり、優しく美しい主題と共に劇的に展開していく第1楽章。(この冒頭部分には、万歳、万歳、ルドルフ陛下という歌詞がつけました。) あちこち飛び跳ねるような、せわしないスケルツォの第2楽章。情熱的に、また非常に情を込めてとベートーヴェンが表記している、心の内を吐露するような、深い意しさをたたえた第3楽章。そして、静と動の対比をつけるべく、第3楽章のアダージョの余韻を大切にしたり序奏で始まり、トリルが印象的なフーガによる複雑で長大な第4楽章からなります。

ベートーヴェンはこのソナタの出版の際に、「このソナタは今後たっぶり50年は、この曲を演奏しようとするピアニストを忙しさせる」と語っていたようで、この作品の演奏の大家さを物語っています。